

犯罪被害者遺族による手記

亡き夫への手紙

小佐々 洌 子

あなたの声が聞こえなくなってから7年が過ぎてしまいました。あなたの元へ行ったケンタと会えましたか。「今ならお父さんを独り占めにしても良いからね。」と言って天国へ送りました。足元でじやれているでしょうか。あなたの姿が見えなくなってから、ケンタも必死に探しまわりました。

散歩の途中、あなたが挨拶をしていたお宅にはすごい力でどンドン庭に入ろうとしました。「お父さんがいるかも…」とでも思ったのでしょうか。もし、犬も話ができるなら「お父さんどこへ行ったの？」と聞いたかったに違いありません。今、一緒にいるなら、何も分らないケンタが安心できるように、もう絶対離さないで下さいね。

事件から7年の歳月が流れると、あなたの知らないことがどんどん増えていきます。当時のあなたより今の私の方が年長になってしまい、何か変です。長い間、外出できなかつたこと、心労で倒れ入院したこと、目の手術をしてメガネをかけることが多くなつたこと、知らないでし

度強いメガネを離せなかつたあなたに「メガネって不便よね。」といつも言っていた私がメガネのありがたさを感じているなんて、やはり知らないでしょう。

あまり体が丈夫でなかつた私が後に残されてしまうなんて思いもよらなかつたことです。いつも一緒にいてくれると思っていたのに、突然消えてしまい、あなたを守れなかつた悔しさに泣き暮れていたなんて全く分らないでしょう。あなたが住んでいた家の証を残しておきたくて、記憶に残る風景にこだわって、模様替えもせずひっそりと暮らしています。あなたが帰って来る日を諦めずに待っている日々です。いつまでも待ち続けますからね。

まもなく春の彼岸がやってきます。あなたと話をしたくて、群馬の山中へ行くのを心待ちにしています。歩きながらずっと話しかけているのにあなたからの返事は無いけれど、きっと耳に届いていると思うから、辛いこと、悲しいこと、泣きたいこと、全部ぶつけに行きます。時には楽しい話もあれば良いのにごめんなさい。どこに眠っているかも分らないのにあても無くただひたすら山中を歩きます。あなたの近くまで行ったら「おーい、母ちゃん、俺ここにいるよ。助けてくれ。」そう言ってくれると私も見つけられるのに。やはり無理でしょうね。

今度もまた、ずっと寒さに耐えていたあなたへのごほうびに庭の忘れな草を持って行きます。春の訪れを感じてくれると良いのですが。

でも、いつも後ろ向きの生活ばかりしている訳ではないので安心して下さいね。三人とも元気にしています。それなりの生き方を見出し始めていますから。あなたがいつも笑顔でいられるように、私たち力いっぱいやっていきます。

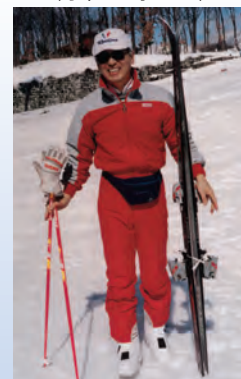
私もありがたいことに「命の大切さ」をお伝えする場を与えていただくようになり、少しずつ声を出しています。私たちにとって、同じような事件が繰り返されるのが一番悲しいことですものね。

いずれ、あなたと再会する時に「良くやったな。頑張れたじゃないか。」

と笑顔で言ってもらえれば、それで十分です。

そのために、もう少しこちらにいます。あなたの分まで生きていきます。時々、愚痴もこぼしますが、その辺は我慢して天国から見守って下さい。

(小佐々守さん)



廃棄物処理業者の不正なごみ処理問題が発覚し、その不当要求をはねつけていた鹿沼市職員だった夫、小佐々守(当時57歳)は、2001年10月、帰宅途中に拉致・殺害されました。暴力団幹部ら4人が逮捕され、実行犯3人が殺害を認めました。事件発覚後、殺害を依頼した主犯の廃棄物処理業者は自殺しました。

夫は孤立無援の中で不正と闘い続け、理不尽な行政対象暴力の犠牲となりました。夫の遺体はまだ見つかっていません。

夢の花

和氣圭司・みち子

平成12年（2000）7月31日午後7時頃、勤務先での仕事を終え、家族の待つ自宅に帰る途中、さくら市蒲須坂の国道4号で、泥酔した飲酒運転の大型トラックに正面衝突され命を奪われました。由佳は事故の約1時間後に死亡。

人生の希望に燃えていた、わずか19才。

加害者は仕事中にビール大瓶4本を飲み、5分休んだだけでハンドルを握り、栃木県から千葉県に帰るために出発しました。後続を走行していた同僚が携帯電話で、3回にもわたり「危ないから止まれ！止まれ！」と警告したにもかかわらず、「大丈夫、大丈夫」と意に介さずに運転を続行し、左側のガードレールに衝突した反動で、センターラインを越え、反対車線を走行していた由佳の車に正面衝突しました。こんな無差別殺人同等「未必故意」の行為なのに判決は「懲役3年6月」でした。

「成人式の着物はいらないよ。その代わり京都に行って舞妓さんみたいに变身したい」と胸を膨らませていたのは、事故の4ヶ月前のこと。舞妓姿の記念写真の中で微笑む由佳は、もう帰ってきません。

介護士として、病院での激務を小さな体で一所懸命こなし、同僚からの信頼も厚かったのです。

そして何より「かつちゃん」という最愛の彼と結婚をして家を建てようと夢を膨らませ「私達ラブラブなの」「今が一番人生でいい時」「青春を楽しみたい。「夢」がいっぱいあるんだよ」と嬉しそうに話していました。

そんな由佳の「夢」を奪った悪質極まりない泥酔状態の運転手の行為は、とうてい許すことはできません！

由佳の墓石にその「夢」という文字を刻みました。

事故後1ヶ月を過ぎた頃、由佳が愛用していた机の上にレポートが置いてあるのが目に止まりました。中を見ると詳しく書かれたメモがありました。

新潟県小千谷市で開催される「片貝まつり」。花火大会のことでした。

9月9日・10日に家族、由佳の友人達と会場を訪れました。世界一の四尺玉の打ち上げがあり、また結婚や還暦祝い、供養などの祈りを込めて打ち上げる花火大会であることがわかりました。

次の年に3回忌追善供養として、4年後7回忌として花火を打ち上げました。打ち上げ前にはメッセージを読み上げてくれます。

「飲酒運転の犠牲になってしまった娘・由佳へ～由佳の声はずっと伝えていくからね。夜空の夢の花を見てください。」

会場がどよめき、その瞬間、真白な大輪の花が夜空に咲きました。美しい。しかし、はかなくすぐに散ってしまいました。由佳の命の様に……。

身勝手な飲酒運転で大切な命が奪われたり、傷つけられたり、あってはならないこと。でも、まだまだ後を絶たない現実があります。

この社会の中から飲酒運転という言葉がなくなることを祈ります。



(和氣由佳さんと母みち子さん)